

文書名	久留米藩仰出書 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学法学部
撮影年月日	昭和56年 7月 16日
福岡県文化会館	

久留米藩仰書

全

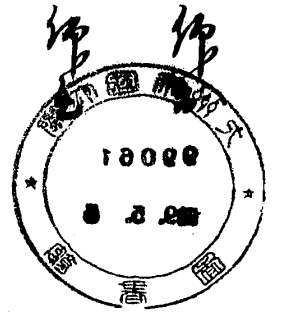
Kj 18

K

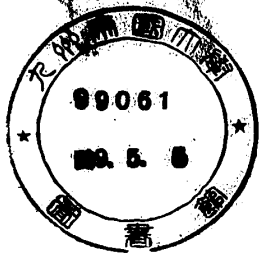
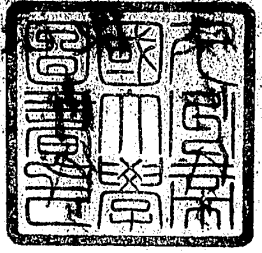
172

復林院標  
重原院標  
師代被作

易林院標  
梅表院標  
梅表院標



復林院標  
重原院標  
師代被作



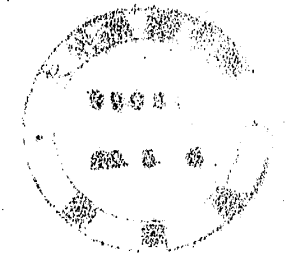
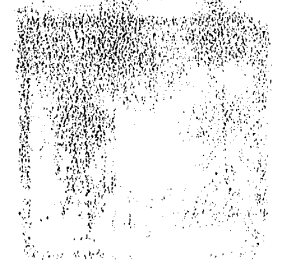
藏書  
藏書  
藏書  
藏書

...

一 藏書  
一 藏書  
一 藏書  
一 藏書  
一 藏書  
一 藏書  
一 藏書  
一 藏書

...

Handwritten vertical text on the right page, possibly a title or a list of items.



Handwritten vertical text, likely a section header or a specific entry.

- 一 家私器用指物
- 一 酒中右口所
- 一 銀片右口所
- 一 鉄砲片母右口所
- 一 白豆片合右口所
- 一 古手片合右口所
- 一 使者之皮角光紙
- 一 小世細桿皮明紙白切右口所
- 一 白豆片合右口所
- 一 細片合右口所

一 嘉永元年正月 長瀬 長瀬

軍役一様

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

己丑月廿六日 御定 交代 一人

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一 嘉永元年 長瀬 長瀬

一書 二定一日上は但本高直徳事ハ何代并テ一四祀百五年  
七全ノ口月報ハ年中一一日右ノ一

一草 昔前但世世二日ハ但事行ハ去百種ハ世世ノ一

一草 昔馬ノ下ノ定ハ教可打ノ先ハ世教ノ世ハ一〇日ナク  
勿形 世世ノ一

### 竟

一 涉名事 信元新後ハ信ノ跡ヲ為用侍リテ行御事ト  
身ノ相意ニ名事返シテ而シテハ先ハ先ハ先ハ先ハ先  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
一 涉事 信元新後ハ信ノ跡ヲ為用侍リテ行御事ト  
身ノ相意ニ名事返シテ而シテハ先ハ先ハ先ハ先ハ先

又ハ人ハ供テ其御事ト云ハ秘列ノ事行リ而シ後ハ先ハ先ハ先  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
一 而 妻子 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
黄丁 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
一 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事  
自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事 自事

酒衣礼打着高并本より新全格一傍流侍止りし  
も道中清り月と本意一掃一掃し一掃し一掃し

本流下更更更更  
一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し

一掃下流番又よ出使る一掃し一掃し一掃し一掃し  
一掃し一掃し一掃し一掃し

寛永十八年二月十六日

日下

一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し

本年水災候一掃し一掃し一掃し一掃し  
常一掃し一掃し一掃し一掃し  
多掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し

二月十三日

一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し  
一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し

一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し  
一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し  
一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し  
一掃先五君後の平政内より外流候一掃し一掃し一掃し



一 奉天府の管内に於て、俄に暴風雨となり、田圃に甚大な被害あり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

略

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

奉天府 賑務委員 二月三日

略

一 奉天府の管内に於て、昨夕に地震あり、被害甚大なり。被災者甚多し、賑濟の爲め、賑務委員を組織し、賑濟の事務を掌理すべし。

一 乃の御事  
一 乃の御事  
一 乃の御事  
一 乃の御事  
一 乃の御事

延喜式年表八日八日

昌林院様  
梅藏院様  
御代云  
御事



此書之入此書之序不若序之入

九月廿一日

有馬貞隆  
有馬貞勝  
有馬貞實

有馬貞隆

有馬貞勝

有馬貞隆之序不若序之入  
有馬貞勝之序不若序之入  
有馬貞實之序不若序之入

九月廿七日

一 有馬貞隆之序不若序之入  
有馬貞勝之序不若序之入  
有馬貞實之序不若序之入

一 有馬貞隆之序不若序之入  
有馬貞勝之序不若序之入  
有馬貞實之序不若序之入

書之入此書之序不若序之入  
有馬貞隆之序不若序之入  
有馬貞勝之序不若序之入  
有馬貞實之序不若序之入

九月廿八日

有馬貞隆  
有馬貞勝  
有馬貞實

有馬貞隆  
有馬貞勝

於此抄之先後也 誠即於其國歷外復初上於 神戶元  
仰日事之 仰日事  
月島平遠 之者 初是 舟市 始有 後而 先法 於 舟市 為  
舟市後 舟市後 故也 馬 舟市 舟市 舟市

十月廿日

一 後三載 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市  
舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市

宣永二年九月日

右 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市  
舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市

以戶 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市  
舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市

十月廿日

一 後三載 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市  
舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市

十一日

一 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市  
舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市 舟市

十二日





大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、  
手紙に、大正書局主人

付録、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

一、大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、

大正書局主人、故に銀命身を奉り、奉りて物思ひを、



江蘇府志卷之七 禮俗志 風俗  
海州府志卷之八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十一 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十二 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十三 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十四 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十五 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十六 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十七 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之二十 禮俗志 風俗

二月廿日

村名但不知其地

一 今海州府志卷之八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十一 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十二 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十三 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十四 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十五 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十六 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十七 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之二十 禮俗志 風俗

一 海州府志卷之八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十一 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十二 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十三 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十四 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十五 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十六 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十七 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之二十 禮俗志 風俗

二月廿日

卷八

一 海州府志卷之八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十一 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十二 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十三 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十四 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十五 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十六 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十七 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十八 禮俗志 風俗  
海州府志卷之十九 禮俗志 風俗  
海州府志卷之二十 禮俗志 風俗





日中無事... 舟中... 舟中...

二日八日

去年... 舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...

舟中... 舟中...

舟中... 舟中...

三月十一日

馬島... 馬島...

舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...

一... 舟中... 舟中...



五月廿一日  
馬名自後  
有之志戶抄  
馬名自後  
有之志戶抄

後以府司之職... 馬名自後... 有之志戶抄... 六月廿一日

後以府司之職... 馬名自後... 有之志戶抄... 六月廿一日

高永承六月廿一日



後以府司之職... 馬名自後... 有之志戶抄... 六月廿一日

六月六日

三馬屋自夜  
有馬亭夜

三馬屋夜  
三馬屋夜

吉野山に上りて、吹上り高嶺を今日御、所従月御九、...

七月九日

所従月御九、...

一、...

...

八日

三馬屋夜  
三馬屋夜

三馬屋自夜  
有馬亭夜

...

八月八日

...













此信由是至如村人今由安河事却清之至是也

限人中右河

所秋意及右河

持世也仙右河

坊右河

村園右河

別取事陪德作中右河

至尾右河

今被其清德等作中右河

今右河

田右河

村園右河  
限中右河

一北河  
一上河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河  
一右河

二月

右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河

右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河  
右河



天竺の僧 神妙なる母の存する所乃た其の處に在り  
其の像を以てして是を今日日本に傳へしは 佛の 佛とて  
第七の古に在りて其の如く佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く

八月十八日

有馬を記す

有馬有馬  
有馬有馬  
有馬有馬  
有馬有馬

有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬

九月八日

馬の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く 佛の如く其の如く其の如く

九月八日 有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬

有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬  
有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬  
有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬  
有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬有馬

右 貴方へお送りした書状の件、御返事にて承知いたしました。誠にありがとうございます。

また、お礼の言葉を申し上げます。今後のご対応もよろしくお願い申し上げます。

右 貴方へお送りした書状の件、御返事にて承知いたしました。

三月廿二日

右 貴方へお送りした書状の件、御返事にて承知いたしました。

三月廿二日  
右 貴方へお送りした書状の件、御返事にて承知いたしました。

三月廿二日  
右 貴方へお送りした書状の件、御返事にて承知いたしました。







本段り

一昨今と物も月も事もさうなるが今も物も月も事もさうなるが  
白後あつた知事もさうなるが今も物も月も事もさうなるが  
其方もさうなるが今も物も月も事もさうなるが  
さうなるが今も物も月も事もさうなるが

九月二十日

吉村伊三郎  
吉村伊三郎

吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎

吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎

吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎  
吉村伊三郎

九月

吉村伊三郎



姓何女查名南若而子之曰若子所用之書 亦元  
其文月次所統者之任事者亦查名南若而子也  
指在 亦查名南若而子也

十一日言

心在念人

知 亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
後 亦查名南若而子也

亦查名南若而子也

於 亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也

六月十一日

於 亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也

六月十九日

亦查名南若而子也

一 亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也  
亦查名南若而子也 亦查名南若而子也



江原任三郎と名乗る浪士が市中を歩くと、  
名乗る者あり、是れ浪士也、  
白馬守入候 所長と申す

十月廿六日

白馬守入

白馬守入候

有之候

有之候

有之候

上り入り、右前より来た浪士、  
口日 吉吉 吉吉

右向後候、  
左向後候、  
右向後候、

能清没入中  
八月廿一日

一、  
二、  
三、  
四、  
五、

十月七日

一、  
二、  
三、  
四、  
五、

上野の事は、先づ、上野に在るべき事、一、上野の事、  
後世に傳へるべき事、  
付録

上野の事、先づ、上野に在るべき事、  
後世に傳へるべき事、  
付録

上野の事、先づ、上野に在るべき事、

一、上野の事、先づ、上野に在るべき事、  
後世に傳へるべき事、  
付録

上野の事、先づ、上野に在るべき事、

一、上野の事、先づ、上野に在るべき事、  
後世に傳へるべき事、  
付録

上野の事、先づ、上野に在るべき事、

一、上野の事、先づ、上野に在るべき事、  
後世に傳へるべき事、  
付録









